

報道関係者 各位

「ファシズム」に関わる議論について考える公開シンポジウム

「ファシズム」をめぐる歴史と思想・哲学の対話—概念の維持・刷新をめぐって—

日時: 2024年11月30日(土) 14:00~17:30

場所: 神田キャンパス 10号館 10092教室 (東京都千代田区神田神保町3丁目8)

専修大学(住所:東京都千代田区、学長:佐々木重人、以下本学)社会科学研究所では、「ファシズム」に関わる議論について、日本におけるナチズム研究、フランス哲学、イギリス社会思想史の3つの立場から考える公開シンポジウムを11月30日(土)に本学神田キャンパスで実施いたします。

近年、いわゆる「ファシズム」に関わる議論について、歴史学と思想・哲学との間で認識の相違が大きくなっています。とりわけ、かつて通用してきた概念について、歴史実証の進展を踏まえてその妥当性に強い疑義が呈される一方で、概念そのものの射程の長さを強調してその有効性を主張する意見も出されており、これが論争に発展する事例も出ています。

元来、哲学・思想は古くから使われてきた概念を現状の変化に合わせて刷新することを重要な営みの一つとしてきたはずですが、歴史をはじめとした実証的研究の蓄積に対して、概念の維持・刷新をめぐって哲学・思想はどのように応じるのか、日本におけるナチズム研究・フランス哲学・イギリス社会思想史を研究する専門家が、それぞれの立場からこの問題について考えます。

つきましては、ご多用のところ恐れ入りますが、報道関係の皆様にご案内申し上げます。

～概要～

■「ファシズム」をめぐる歴史と思想・哲学の対話—概念の維持・刷新をめぐって—

日時: 11月30日(土) 14:00~17:30

場所: 神田キャンパス 10号館 10092教室 (東京都千代田区神田神保町3丁目8)

テーマ: 「ファシズム」をめぐる歴史と思想・哲学の対話

登壇者: 【報告者】

田野大輔氏 (甲南大学文学部教授)

檜垣立哉氏 (専修大学文学部教授)

【コメント】

板井 広明 氏 (専修大学経済学部教授、社会科学研究所員)

【コーディネータ】

恒木 健太郎氏 (本学経済学部教授、社会科学研究所員)

【司会】

金子 洋之 氏 (専修大学文学部教授、副学長、社会科学研究所員)

参加者: 一般の方

方式: 対面、オンラインのハイブリッド形式

主催: 専修大学社会科学研究所

